

令和6年度 具体的な学校経営目標・計画

1 組織的な学力向上施策

岡山県立高梁高等学校 No.1

本年度の 重点目標		担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			最終達成状況と評価		
					達成状況		評価	達成状況		評価
①	資質・能力を 育成するR－ PDCAサイ クルの実践	教務課	本年度各教科が身につけさせようとする資質・能力の育成に向けて、学習指導年間計画に基づき、R-PDCAサイクルを意識した取り組みを行ってもらえるように、教科主任を通じて働きかける。	生徒を対象とした授業評価アンケート 「教科で目標とする資質・能力が身についた」という質問に対する回答の肯定群が70％を超える教科が9教科中 A：7教科以上 B：5教科以上						
		家政科	家政科が今年度から使用している「今未来手帳」を活用しながら、日々の自分の行動を意識し、自分自身と周囲の状況を客観的に捉え、振り返ることができる場面を増やす。	生徒を対象とした家政科アンケート 「手帳等の活用により、自分の行動を客観的に捉えて調整することができた」という質問に対する回答の肯定群が A：80％以上 B：60％以上						

2 キャリア探究プログラムの深化

本年度の 重点目標		担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			最終達成状況と評価		
					達成状況		評価	達成状況		評価
②	系統的なキャリア探究プログラムの構築	進路課	3年間のロードマップをもとに、「進路×生き方探究」と「地域×課題探究」を連動させた探究活動を実施する。それぞれの活動の前に、年次主任と探究係を中心にその趣旨と目指す方向性などの共有を図る。	教員を対象とした学校自己評価アンケート 「総合的な探究の時間『方谷学』は、地域・社会の課題の解決に向けて動く能力を育み、将来の進路選択や望ましい生き方を考えることに役立っている。」という質問に対する回答の肯定群が A：85％以上 B：80％以上 (参考) R5年度の類似項目アンケートでの肯定群は82％。						
③	ICTを活用した文理横断的・探究的な学びの促進	進路課	データサイエンスを意識した探究活動を進める。生徒が方谷ゼミで探究を進めていく過程で、CiNiiやGoogle Scholarなどを使って先行研究を調べたり、地域経済分析システムRESASなどから統計を活用したりできるよう支援する。	生徒対象の学校自己評価アンケート 「総合的な探究の時間で、探究を進めていく過程で、先行研究を調べたり統計データを扱ったりすることの重要性を意識した。」という質問に対する回答の肯定群が A：80％以上 B：70％以上						
		情報室	ICTを活用した文理横断的・探究的な学びの促進につながる校内研修を年間5回行う。	教員対象の令和6年度1人1台端末を活用した学びの変容状況把握 ①「生徒が端末を活用して情報を整理・分析する活動を設定していますか」 ②「生徒が端末を活用して発表する活動を設定していますか」 の質問に対する肯定的な回答群の割合がそれぞれ A：75％以上 B：70％以上 (参考) R5度の2回調査平均：①71.9％ ②70.8％						
④	難関大・ブロック大へ向けた指導の充実	進路課	教科担当者を加えた拡大年次会を開催し、進路指導マニュアルの基準と照らし合わせて志望形成を行い、個別の教科指導体制を確立する。また、OB・OGの協力も得ながら、難関大志望者を対象とした集会（1・2年次生）、岡山大志望者を対象とした集会（2年次生）を開催し、上位大への志望意識を高める。	A：進路志望調査で各年次3～5名程度の難関大志望者がいる、かつ11月進研模試での3教科総合または5教科総合の学習到達ゾーン（GTZ）でA2（岡山大合格ライン）以上が10名以上いる。 B：Aのいずれかの項目が満たされていない状況 (参考) 現2年次生の昨年度・・・3教科A2以上（6人、9人、5人） 現3年次生の昨年度・・・3教科A2以上（12人、11人、15人） 5教科A2以上（7人、14人）						

3 ポストコロナのグローバル教育の充実

本年度の 重点目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			最終達成状況と評価		
				達成状況	評価		達成状況	評価	
⑤	国際交流プログラムの進化	教務課 ①台湾港明高校との姉妹校提携を結び交流を開始する。 ②姉妹校受入プログラムの確定・実施	A：①②両プログラムともに無事終えることができた。 B：どちらか片方のみになった。						

4 安心・安全で快適な学習環境の確立

本年度の 重点目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			最終達成状況と評価		
				達成状況	評価		達成状況	評価	
⑥	初期指導の充実	教務課 たか高 Fit in サポートの各プログラム等、年度当初のガイダンス等のサポートを充実させることにより、学習習慣・生活習慣を確立させる。また、学校生活を通し、良好な人間関係を築き、たか高の魅力を感じて学校生活を送ってもらう。	生徒対象の学校自己評価アンケート 「学校行事は充実したものとなっている。」「総合的な探究の時間は、将来の進路選択や望ましい生き方を考えるうえで役立っている。」「学校は、自分の進路選択に向けて、生徒・家庭・学校の3者間で連携をとりあいながら、きめ細かな指導を行っている。」「習熟度別授業や少人数授業によって、よりわかりやすい授業を受けられる。」の質問に対する回答の肯定群が85％を超えている項目数が A：4項目全て B：2項目以上						
⑦	教育相談体制の確立	生徒課 時程内で特別支援コーディネーターを中心に生徒に関する情報を共有する特別支援会議を設ける。具体的な方策としては、リアクティブ的な教育相談のみならず、すべての生徒にスクリーニングをかけるプロアクティブ的な教育相談を重視した体制を確立する。スクリーニングにおいても、連続欠席3日や保健室利用週3日以上などの基準を設定することで、各年次主任などがリストアップしやすくし、網羅的に教育相談が必要な生徒を把握し学校全体で一体となってそれぞれの生徒に対応していく。	生徒対象の学校自己評価アンケート 「悩んだり困ったりすることがあれば、面談等さまざまな機会に先生に相談することができる。」の質問に対する回答の肯定群が A：80％以上 B：70％以上 (参考) R5年度の調査では肯定群が74％						

5 学校からの情報発信の進化

本年度の 重点目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			最終達成状況と評価		
				達成状況	評価		達成状況	評価	
⑧	戦略的かつ効果的な広報活動による生徒募集	総務課 HPブログを軸として本校の魅力や特長を効果的に外部発信するHP・SNS運営を行う。HPブログでは活動の様子を逐次的に発信するとともに、行事等の告知を計画的に発信し、行事等参加者の加増に貢献できるような運営を行う。	HPブログで行事等の告知を計画的に発信する取組を通じて、学校行事等の来場者総数を昨年度よりも加増させる。 A：昨年度比60名以上多く増加した（5％以上） B：昨年度人数に対して同数～数名増加した（5％未満） ※昨年度総数 約1,200名						
⑨	保護者の学校理解の促進	総務課 保護者に本校HP・SNSによる情報発信が周知されるよう働きかけると同時に、本校教育活動に対する保護者の理解度を深めるための情報提供の質・量の向上を図る。具体的には、保護者の来校行事の告知を計画的に行い、行事内容の充実を図り、保護者の声を生かすよう校内外に働きかける。	保護者対象の学校自己評価アンケート 「本校HP・SNSや行事等を通して本校の教育活動に対する理解が深まった」の質問に対する回答の肯定群が A：85％ B：80％ (参考) R5年度の調査では肯定群が82％。						